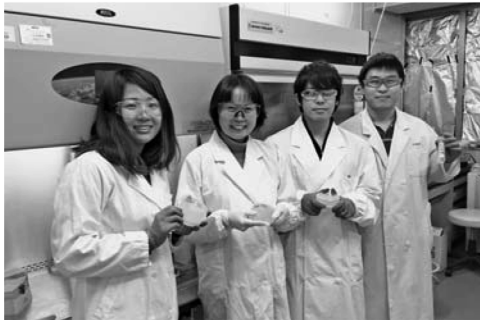


新しいたんぱく質材料を開発

自分で手を動かして、発見の瞬間に立ち会つのが好き。マネジメントには関わらず、ずっと実験だけをしていられたら…。2007年、このような思いを抱きつつ米国で博士研究員をしていたとき、突然「日本の大学で助教にならないか」という誘いを受けた。自信のなかった私は、1カ月も返事を保留してしまった。そのときに背中を押してくれたのは、後にボスとなる先生からの「環境が人を作るから、思い切って飛び込んでほしい」という一言だった。

凛としていきる

理系女性の挑戦



環境で人は変わる、飛び込む勇気を

東京大学に助教として着任して間もなく、ある気づきがあった。自分の発言が、博士研究員時代よりも尊重され、影響力を持つようになった。自分のアイデアに共感してくれる

学生と共同で研究し、チームで成果を出す。手を動かす機会は減つたが、多角的に研究を展開でき、時には学生が予想外の結果を報告してくれる。これは面白いと思つた。

5年後、准教授への昇任のチャンスがめぐつてきた。場所は名古屋。当時の私は第2子を妊娠中、着任すれば東京で会社員をしている夫

とは別居になる。そのような厳しい条件であっても、挑戦したい気持ちが大きくなつていった。「やりたいことを応援するよ」。夫の協力に支えられ、14年1月、2人の子供を連れて単身で名古屋大学に赴任した。以来夫は毎週末名古屋に通い、家族の時間を大切にしてくれている。

私は現在、再生医療の発展に向けた新しいたんぱく質材料を開発している。働く母が、限られた時間で結果を出すためには、卓越した

現職場のたんぱく質研究チーム。3人の学生とともに

チームプレーは組織を動かす力にもなる。名古屋大学は女性教員を積極的に採用しており、その結果、子連れ単身赴任がレアケースではなくなった。子供と関わりたい、仕事もしたいという我々の共通したニーズは、子供と一緒に利用できる新しいコワーキングスペースを学内に誕生させた。

日々是成長、この10年間歩んできた環境は私の意識を大きく変えた。次は、自分が若い人の背中を押す立場に



〈プロフィール〉東京大学大学院工学系研究科で博士(工学)を取得後、東京医科歯科大学博士研究員、カリフォルニア工科大学博士研究員、東京大学助教を経て2014年より現職。

名古屋大学 大学院 工学研究科 准教授
 鳴瀧 彩絵 (なるたき あやえ)
 (火曜日に掲載)

た独創性と、チームを活性化するリーダーシップが重要であると強く感じる。
 チームプレーは組織を動かす力にもなる。
 企画協力・日本女性技術者フォーラム(JWEF)